

博士前期課程（修士） / 助産看護学領域 / 助産看護学分野

科目コード：280013

## 助産実践実習 I -2（正常） Midwifery Practicum I -2(Normal nursing)

担当教員 亀田 幸枝、米田 昌代、曾山 小織、河合美佳、野沢ゆり乃

実務経験

開講年次	2年次前期	単位数	3	授業形態	実習
------	-------	-----	---	------	----

必修・選択	選択	時間数	135
-------	----	-----	-----

Keywords ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例

学習目的・目標

学習目的:

1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対して、助産師としての職業倫理と女性中心のケア（尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック）・家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個性性を重視した、根拠に基づく助産実践ができる。
2. 様々な助産の場や人々との関わりを通じて、専門職としての役割と行動、多職種との連携等を理解し、助産師としてのアイデンティティを育むことができる。

学習目標:

1. 1.妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に、生理的経過と健康状態を促進する助産過程を展開し（観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価）、実践できる。
2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務について理解できる。
3. 職業人となるに向けて助産師職の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自らの助産実践の課題を示すことができる。
4. 自己の助産師像をイメージし助産観を表現できる。

### 授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
	<p><u>妊娠期実習</u> 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦の妊婦健康診査を行う。</p> <p><u>分娩期実習</u> 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行い、分娩進行に伴う産婦と家族へのケアおよび分娩介助を行う（助産実践実習 I -1と合わせて10例以上）。 出生直後の母子接触、早期授乳への支援、分娩想起への支援を行う。</p> <p><u>産褥・新生児期実習</u> 産褥の産後の回復や新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。</p> <p>* 詳細は実習要項参照</p>	実習	<p>亀田</p> <p>米田</p> <p>曾山</p> <p>河合</p> <p>野沢</p>

教科書 各種講義で使用したテキスト

参考図書等 随時紹介する

評価指標 実習評価表に準ず

関連科目 助産診断・技術特論演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術特論演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術特論演習Ⅲ（産褥期・新生児期・乳幼児期）、助産診断・技術特論演習Ⅳ（ハイリスク）、助産実践実習Ⅰ-1(正常・継続)

教員から学生へのメッセージ 助産実践実習Ⅰ-1で学んだ知識と技術を深め、妊産婦・新生児とその家族の健康を促進し、より満足のいく妊娠・出産・育児となるように支援していきましょう。